

『2026年度版 金融生成AIベーシック試験問題集』正誤表

2026年2月2日

該当箇所	誤	正
87ページ 解説と解答3)	不適切である。仮名加工情報の利用目的は、原則として作成の元となった個人情報の取得に際して特定された利用目的が引き継がれるが（個人情報保護法ガイドラインQ&A（仮名加工情報・匿名加工情報編）14－1）、変更後の利用目的をできる限り特定したうえで本人に通知または公表すれば、当初の利用目的には該当しない内部分析などの目的にも利用することができる（個人情報保護法41条4項、9項、21条3項）。これらの内部分析の実施は、生成AIによる分析についても同様の整理が可能である。	不適切である。仮名加工情報の利用目的は、原則として作成の元となった個人情報の取得に際して特定された利用目的が引き継がれるが（個人情報保護法ガイドラインQ&A（仮名加工情報・匿名加工情報編）14－1）、変更後の利用目的をできる限り特定したうえで <u>（削除）</u> 公表すれば、当初の利用目的には該当しない内部分析などの目的にも利用することができる（個人情報保護法41条4項、9項、21条3項）。これらの内部分析の実施は、生成AIによる分析についても同様の整理が可能である。
170ページ 解説と解答①	適切である。具体的な表現を得る過程で費やされた「労力」それ自体や具体的な表現に至らない「作図」（アイデア）を著作権法は保護していない（内閣府知的財産戦略推進事務局「AI時代の知的財産権検討会「中間とりまとめ」-権利者のための手引き-」）。〈以下略〉	適切である。具体的な表現を得る過程で費やされた「労力」それ自体や具体的な表現に至らない「 <u>作風</u> 」（アイデア）を著作権法は保護していない（内閣府知的財産戦略推進事務局「AI時代の知的財産権検討会「中間とりまとめ」-権利者のための手引き-」）。〈以下略〉

以上